

うちの学校

紹介しまあ!

その19

浦小学校



浦小学校は、神戸淡路鳴門自動車道東浦インターを降りてすぐの所にあります。学校周辺には、公園施設や海水浴場があり、田畑や川など豊かな自然が広がっています。自然の豊かさで都会へのアクセスの良さでここ数年児童数は増加しており、今年度は一九五名の児童が学んでいます。

浦小学校には敷地内に田畑があります。畑では一年中野菜を育て、田んぼでは米づくりを、籾まきから脱穀まで自分たちで行っています。米づくりは、三年生と五年生が中心となり、大切に苗を育てることから始まり、二・三年生の子どもたちが



田植え



浦小まつり

これからも地域の宝である子どもたちを、浦の豊かな自然の中で、地域の方々と連携協力して温かく豊かに育んでいきたいと思えます。

水田に入り、田んぼを耕す意味も込めて「どろんこ遊び」をします。初めは、恐る恐る入っていく子も、最後には体中泥だらけになって走り回っており、貴重な体験となっています。そして、田植えと稲刈りは、保護者の方にも協力していただいで行います。子どもたちは、教えてもらいながら慣れない手つきで一生懸命作業をしていました。おかげで、秋には自分たちで育てたお米をたくさん収穫することができました。

十月には、保育所や作業所の方を招待して行う浦小まつりがあります。各クラスが、的あてやお化け屋敷などみんな楽しんでもらえるお店を出します。どのお店も必死で呼び込みをしたり、景品を作ったりと、工夫を凝らします。中でも高学年の児童が、保育所の園児とともにお店を回りながら優しく声をかけている姿は印象的です。

十一月二十七日には、文化発表会を行っています。それぞれの学年が、音楽・体育などこれまでに学習したことを発表します。短い練習期間ですが、子どもたちは緊張しながらも持てる力を精一杯発揮してがんばっています。プログラム最後には、全校生一九五名で合唱をし、一年生から六年生まで一人一人がそれぞれのパートの責任を果たし、体育館の中には温かいハーモニーが毎年響き渡っています。

支部活動 岩屋支部活動

淡路市人権教育研究協議会岩屋支部では、活動の一つとして、各地の取組に学び、交流を図ることを目的に毎年視察研修を行っています。今回の視察研修では、11月26日、「たつの・皮革産業の歴史をたどる」をテーマにワールドワークを実施しました。

まずは、主力産業の皮革工場を見学。皮革の生産量で全国1位のシェアを誇るたつの市ですが、近年は安価な外国製品に押され生産高が減り続けているとのこと。しかし、そんな逆風の中、若い人たちが、新たな可能性の一つ「たつのレザー」を広げる活動に取り組んでいます。その懸命な姿と生き生きとした動きに感動!

次に霞城館・矢野勘治記念館を訪れ、哲学者・三木清などの龍野が生んだ文化人に関する文献・資料を鑑賞。明治から昭和の激動の時代を生きた先人たちの業績を称えつつも、地道な活動の継続もまた大切なものであるとの認識を新たにしました。

たつの市総合隣保館では、地元で活動している人権推進員の方々から、地区の歴史や現状のほか、人権啓発の取組についてお話を伺いました。

たつの市では、平成18年12月市議会において「たつの市『人権尊重都市宣言』」が決議された後も、人権施策推進指針などを策定しながら、すべての市民の人権が尊重される社会づくり、こころ豊かな人権文化に満ちたまちづくりを旨として取り組んでいるとのこと。

映像や文面だけでは伝えきれない「たつのレザー」完成までの工程を目の当たりにし、ワールドワークの大切さを実感しました。



皮革工場キタヤ